

ジェットスター・ジャパン、3期連続で増収増益を達成

- 2018年6月期も増収増益、3期連続の黒字を達成
- 当期純利益は対前年比91%増の9億5,300万円
- 平均搭乗率は対前年比2ポイント増の87%

ジェットスター・ジャパン株式会社(本社:千葉県成田市、代表取締役社長:片岡優)は、本日、2018年6月期決算(2017年7月1日~2018年6月30日)で、9億5,300万円の当期純利益を計上し、3年連続で通期の黒字を達成したことを発表しました。営業収入は対前年比8%増の570億円、営業利益は11億3,400万円となりました。

2018年度の搭乗者数は、ジェットスター・ジャパンとして最多の536万人(有償ベース)となり、平均搭乗率は対前年比2ポイント増の87%となりました。国内線におけるLCCとしての旅客数シェアは52%(注)で最大となっています。

ジェットスター・ジャパン株式会社の代表取締役社長、片岡優は次のように述べています。「お客様からのご支持と関係する皆様からのご支援、ご協力のおかげで、昨年も事業が順調に推移し、黒字を達成できました。今年8月には、就航からの累積搭乗者数が2,600万人を突破し、国内LCCとして最速で達成しました」

「昨年は定時運航率が4ポイント改善して85%になったほか、オンラインチェックインの利便性の向上、有料会員プログラム Club Jetstar の刷新などにも取り組みました。一人でも多くの方が安全で低運賃の空の旅をお楽しみいただくことができるよう、路線網を今後さらに拡充していくと同時に様々な施策を進めます」

ジェットスター・ジャパンは、昨年12月に就航した成田=宮崎路線を加えて、現在国内外16都市・26路線まで路線網を拡充しました。機材は22機まで増え、年内にさらに2機の導入を予定しています。また、今年3月に中部国際空港に拠点を開設し、同空港発着路線を増便したほか、9月6日に成田=長崎路線、10月27日に関西=熊本路線を開設するのに加え、冬期運航スケジュールより成田=宮崎路線を増便します。

ジェットスター・ジャパンは、今後も『日本の空、世界の空を、もっと身近に。』というビジョンの下、安全運航を第一に、低運賃と確かな運航品質を維持しながらお客様に支持されるエアラインを目指します。

(注)国土交通省「航空輸送サービスに係る情報公開(平成29年度第4回)(2018年7月発表)を基にジェットスター・ジャパンが算出。本邦LCCにおける国内線マーケットシェア:52%(RPKベース:平成29年4月~平成30年3月)



【ジェットスター・ジャパンについて】

「日本の空、世界の空を、もっと身近に。」をビジョンとして掲げ、2012年7月より日本国内線、2015年2月からは国際線の運航を開始しました。現在、国内12都市・17路線、国際4都市・9路線を22機のエアバスA320型機(180席)で1日約100便を運航しており、就航から2,600万人以上のお客様にご利用いただいています。ジェットスター・ジャパンには豪カンタスグループ、日本航空株式会社、三菱商事株式会社、東京センチュリー株式会社が出資しています。

<https://www.jetstar.com/jp/ja/home>

###